

正 誤 表

ページ・行	誤	正
まえがき 14 行目	市内 中学校	市内小・中学校
目次 Ⅲ. 1. 2	酒井 敬	酒井 敬一
P 2 図 I-1-1	水性動物・蝶類	□ 水生動物・蝶類
" "	沈水植物	[] 沈水植物
P 29 29 行目	$r = 0.877$	$r = 0.756$
" "	$\phi = 15$	$\phi = 16$
" 33 行目	$r = 0.969$	$r = 0.878$
" "	$\phi = 12$	$\phi = 16$
P 34 24, 25 行目	優先的	優占的
P 37 30 行目	一(2)付着藻	3)一(2)付着藻
P 42 図 II-2-2	優占種及び亜優占種	優占的な種
P 52 表 II-2-2	Coscinodiscus	Coscinodiscus sp
P 62 Plate II-2-1	17 ~ 21	18 ~ 22
" "	22	25
" "	23	26
" "	24	23
" "	25	24
" "	26	27
" "	27	17
P 72 20 行目	初夏の	初夏は
P 74 表 II-3-2	セスジュスリカ シマイツビル	セスジュスリカ シマインビル
P 91 20 行目	0.5 t	5 t
P 101 13 行目	シウサイフグ	ショウサイフグ
P 102 表 III-1-7	イヌノシタ	ゲンコ
P 104 図 III-1-4	"	"
P 154 図版	7	8
" "	8	7

ま え が き

横浜市内の川や海に魚がいなくなったといわれるようになって久しく、その間に、いわゆる死の川は次々と埋立てられて道路や下水道みちになったりし、一方砂浜等の海岸も大方埋立てられて工場地帯となっている。このように、水を中心とした環境は市民から遠くなるばかりである。

しかし、近頃一部の水域で魚がもどってきたという話をよく耳にするようになった。これは、水質規制などの効果が目にみえるようになってきたことを示すものと考えられ、公害防止に携わる我々にいさゝかの自信と勇気を与えるものである。

横浜市の水質汚濁防止対策の目標は「釣や水遊びのたのしめる海や川を市民の手にとりもどす」ことである。これは、とりもなおさず、市内に生物が生活出来るような、水を中心とした環境をつくり出し、そのなかで市民がそれら生物と共に生活出来るということである。

このような目標を達成するための施策の一つとして、市内生物相調査が企画され、すでに昭和48年にその第1回目の調査が実施された。この調査は、かつて市内でみられた生物に関する聞き取りおよび踏査によるその時点での調査を主としたものであった。

昭和50年には、この調査結果を「横浜市水域における生物指標」として要約し、さらにスライド化して市内 中学校の教材用として配布した。この生物指標作成の目的は、水質汚濁の現況および水域のあるべき姿を市民に、親しみやすい生物をとおして理解してもらうことである。

今回の調査は、この指標作成後の水域の変化の把握と調査内容の充実を図って実施したものであり、その実施にあたっては「横浜市内生物環境調査会」に委託したものである。

本報告は、上記調査会による調査結果と、同時に行なわれた横浜市公害研究所の調査の結果とをとりまとめたものである。

昭和53年 4 月 1 日

横浜市公害対策局長

猿 田 勝 美

要 旨

1. 本調査は、水質汚濁の現況を生物環境の面から把握すると同時に、その結果を市民の親しみやすい形として、「横浜市水域における生物指標」にまとめるために実施されているもので、今回はその第2回目として昭和51年9月から昭和52年9月にわたって行ったものである。
2. 調査の内容はつぎのとおりである。
 - 1) 河川の魚類、水生動物、付着藻類および沈水植物
 - 2) 河川周辺の昆虫および植物
 - 3) 海域の魚類および付着生物
3. 河川では6科14種の魚類が確認され、鶴見川および柏尾川には魚の種類数、個体数ともに多い。優占種はオイカワ(ヤマベ)、モツゴ、およびホトケドジョウであり、その他アブラハヤ、ギンブナ、コイなどが認められた。
4. 水生動物および付着藻類からみると、市内河川は中程度からやや強く汚濁されている水域が多く、それぞれイトミミズ、セスジユスリカ、およびハリケイソウが優占種である。
5. 鶴見川流域で6科28種、円海山周辺で6科27種、合せて6科36種のチョウが確認された。
6. 海域では、根岸湾周辺沖合で30科45種、沿岸域で47科92種が確認され、あわせて60科114種であった。沿岸域、特に金沢湾ははまだ藻場の存在等の自然海岸が残っており、産卵および稚魚の生育場として重要な役割を果している。

目 次

I. 概 要

1. 横浜市内生物環境調査	1
2. 横浜市内の川と海の概況	4
1) 川の概況	4
2) 海の "	7

II. 川

1. 市内河川の魚類（公害対策局）	13
1) はじめに	13
2) 調査方法	13
3) 調査結果	13
(1) 魚類生息状況	13
(2) 主要魚種の体長分布と産卵状況	18
(3) 体重と体長の関係	24
(4) 河川形態と魚の分布	24
(5) 魚類相からみた生物学的水質判定	29
4) まとめ	33
2. 市内河川の付着藻植生と生物学的水質判定（公害対策局）	34
1) はじめに	34
2) 調査方法	34
3) 結果と考察	34
(1) 付着藻植生	34
(2) 付着藻よりみた水質汚濁状況	37
(3) 昭和48年度の水質汚濁状況との比較	38
4) まとめ	39
3. 鶴見川の生物相調査（大野通胤）	70
1) 調査の対象と生物	70
2) 調査地点	70
(1) 水生動物	70
(2) 昆 虫	70
3) 調査期間	70
4) 調査方法	70
(1) 水生動物	70
(2) 昆 虫（チョウ）	71
5) 調査結果	71
(1) 水生動物	71
(2) 昆 虫	71
6) 考察と結論	72

(1) 水生動物	72
(2) 昆虫	72
4. 円海山周辺の生物相(竹内 裕)	80
1) はじめに	80
2) 調査方法	80
3) 調査結果	80
(1) 水生生物	80
(2) 円海山周辺の蝶類	83
4) まとめ	83
5. 鶴見川河川敷を中心とした植生(佐藤文信)	85
6. 境川水系の沈水植物(青砥航次)	88

Ⅲ. 海

1. 根岸湾周辺の底生魚類相(加山孝, 岩田明久, 酒井敬, 細谷誠一)	91
1) はじめに	91
2) 調査方法	91
3) 調査海域の概況と環境条件	91
4) 調査結果と考察	93
(1) 出現魚種	93
(2) 各調査区域での比較	101
(3) 過去との比較	108
5) まとめ	110
2. 横浜市沿岸域の環境変化と魚類相(予報)(加山孝, 岩田明久, 酒井敬, 細谷誠一)	115
1) はじめに	115
2) 調査方法および調査地点の概況	115
3) 結果	115
(1) 調査水域別の出現魚種	115
(2) 塩分濃度と出現魚種との関係	124
4) まとめ	124
3. 横浜港の付着動物(大野通胤)	125
1) 調査対象とした動物	125
2) 調査場所	125
3) 調査期間	125
4) 調査方法	125
a: 岸壁の付着動物	125
b: 実験板による浸漬 水深別付着動物	125
5) 結果と考察	125
a: 岸壁の付着動物	125
b: 実験板による浸漬 水深別付着動物	126
6) まとめ	129